

イリコの島 伊吹島の現状と課題

三好 兼光（郷土研究家）

[本城先生]

三好さんのご経歴をここで紹介することになるのですが、実は自己紹介のためのスライドが話の中に入っておりますので、私からの紹介はやめて、三好さんから自己紹介をしていただくことにしたいと思います。

[三好先生]

香川大学 瀬戸内海圏研究センター
学術講演会資料

香川県 観音寺市 伊吹島

「イリコの島 伊吹島の現状と課題」

伊吹島研究会
三好兼光

伊吹島から来ました三好です。私は伊吹島で海上タクシーを 3 年間やっているのですが、稲田先生が伊吹島によく来られて、「伊吹島はイリコの島で元気なのに、なぜ人口が減るのか、香川大学で一度話をしてほしい」とのことで、のこのこやってきました。明後日から東京でアイランダーといって全国の島の人が集まるイベントがあるので、その準備をしていて、本日、遅れまして申し訳ありません。

それでは、本題に入ります。「イリコの島 伊吹島の現状と課題」ということで、今、伊吹島で何が起きているのか、皆様に報告したいと思います。その上で、「今後どうしたら良いか」ということを先生方から教えていただけたら良いなと思って出てまいりました。

これは伊吹島の遠景です。伊吹島は観音寺市の沖合にあり、観音寺の真西に位置しています。^{まるがみじま}円上島、^{またじま}股島、^{こまたじま}小股島が伊吹島に含まれています。観音寺から伊吹島までの距離は約 10Km です。

この写真が伊吹島の全景です。この港が真浦港、定期船の着く所です。こっちにもう一つ北浦港があって、2 つの港があります。それで、東の丘と西の丘の鞍部に集落があります。

伊吹島の紹介



ちょうど中央の森が八幡神社です。ですから島の中心が八幡さんということです。今ある集落は4千人住んでいた頃のものが、そのまま残っているのです。空き家と廃屋が2/3を占め、残りの1/3で生活しているような状態です。伊吹島の西側は冬の季節風、北風、西風が吹きます。西側にあったイリコの加工場1軒は10年前に台風で水をかぶって、それから操業をしておりません。それ以外に西側の海岸線に人家はありません。

伊吹島は海底火山の溶岩の島です。後で紹介しますが、真浦港の西の海岸が赤くなっています。赤崎という所です。島の北西に石門という所があります。北浦港に谷戸の穴があります。これも溶岩でできた所が隆起して浸食されたもので、あとで紹介します。

次に伊吹島の位置です。高松に住んでいる方は香川県の西の端の孤島と思っているかもしれません。しかし、高速道路で無料配布されている瀬戸内海全域の地図を折りたたむと、ちょうど真ん中が伊吹島になります。これは「伊吹島は瀬戸内海を中心である」ということをただ単に言いたかっただけの話です。

稲田先生が先程話をされていました泉佐野と大分県の杵築市についてです。伊吹島のことわざに「東に75里、西に75里」とあります。「東に75里」には関空のある泉佐野市があり、今、ここに100世帯ほど、「西に75里」には大分県杵築市があり、ここに40世帯ほど、これらは伊吹島の分村です。母村の伊吹島では魚が獲れないということで、豊後水道の入口と紀淡海峡の入口の所で魚を獲るようになって分村ができました。けど今、どちらも高齢化で漁業の状況は良くありません。

伊吹島の全景



伊吹島の位置1



伊吹島の位置2



次に伊吹島の概要を説明します。伊吹島の人口は江戸時代に 800 名いました。それが現在は 623 名です。逆ピラミッドで少子高齢化が進んでいます。島の産業は夏場のイリコ漁です。それから底引漁とかで、通年、魚を獲っています。ですが漁獲減、それに重油高騰が加わり、さらに魚価の低迷です。このへんは後で説明させていただきます。

アクセスは観音寺港から 1 日 4 便の旅客船です。観光資源は江戸時代より続く伝統行事がたくさんあります。^{ももて}百手祭、島四国、神楽、秋祭り、民俗のことでは産育習俗が全国的にも貴重です。しかしながら観光客の受け入れ態勢が不十分です。

ここで私の紹介をさせていただきます。
1951 年、昭和 26 年に伊吹島で生まれました。出部屋育ちで、産院で 1 ヶ月過ごしています。地元の高校を卒業後、愛知県の自動車会社に就職して 38 年間いました。そこを 3 年前に定年退職して伊吹島で海上タクシーを始めました。築 120 年の雨漏りのする実家で単身赴任をやっています。家の方は愛知県にありますけれども、私だけ伊吹島に帰っています。若い時から伊吹島の歴史とか、民俗に興味があって、帰省時に調査とか、資料を収集してきました。

伊吹島の概要

- 島の人口 江戸時代800名現在623名
逆ピラミッド 少子高齢化
- 島の産業 夏場のイリコ漁・底引漁通年
漁獲減、重油高、魚価の低迷
- アクセス 観音寺港から1日4便の旅客船
- 観光資源 江戸時代より続く伝統行事
百手祭・島四国・神楽・秋祭り
産育習俗・観光客受け入れ不十分

自己紹介

- 1951年（昭和26年）伊吹島に生まれる
出部屋育ち
- 地元の高校を卒業後愛知県の自動車会社に就職
- 3年前定年退職後伊吹島で海上タクシーを始める 築120年の実家で単身赴任
若い時から伊吹島の歴史・民俗に興味有
帰省時に調査、資料を収集

海上タクシーと私



それから、伊吹島研究会の歩みとして 2 つ紹介します。一つは金田一春彦先生の歌碑を建てる時に、伊吹島研究会を立ち上げました。もう一つは伊吹島の記録を残すということで、『伊吹島の歴史をたどる』、『太鼓台資料集』、『出部屋資料集』、『神楽資料集』、今年は『伊吹島の民話』を発刊しています。それから各種イベントの実施ということで、子供武者行列、島歩き、出部屋の写真展、桜の植樹等、伊吹島の活性化に取り組んでいます。

伊吹島研究会の取組み

- 金田一先生歌碑の建立に奔走
- 出部屋跡地の整備、資料収集
- 伊吹島の記録集の作成
伊吹島の歴史をたどる、太鼓台資料集
出部屋資料集、神楽資料集、伊吹島の民話
- 各種イベントの実施 子供武者行列
島歩き、出部屋写真展示、桜の植樹等
伊吹島の活性化に取り組んでいる

活動事例ですが、伊吹島出身者から寄付を募り真浦港の公園に金田一先生の歌碑を建立しました。これが私達のメンバーです。除幕式には金田一先生の奥さんとご長女を東京からお招きして除幕式を行いました。伊吹島は全国で唯一 5 つの使い分けができる古い日本語のアクセントが残る島として、言語学者から注目されています。

今までの活動事例(1)

①金田一春彦先生歌碑建立(平成16年)
伊吹島のことばのアクセントは全国で唯一
5つの使い分けができる古い日本語の
アクセントが残る島
全国に散らばる島出身者から寄付を募り
真浦港小公園に歌碑を建立

島ことばに自信が持てるようになった
島出身者との交流の場が多くなった
島の観光名所になった

金田一先生歌碑前での記念写真



伊吹島のアクセントは 5 種類の使い分けができるということですが、日本語には一類、二類、三類、四類、五類のアクセントがあります。伊吹島に残っているこの三類の高中というアクセントが平安鎌倉のアクセントと良く似ているということです。一方、標準語は 3 種類になっています。また、観音寺は 4 種類でこの三類のアクセントが消えています。

高松出身の方いますか。伊吹島の方でなければ、どこの方でも良いのですが、助詞の「牛が、梅が、顔が、風が、口が」いうことでこの三類のここを読んでほしいのです。では、稲田先生お願いします。(稲田先生発声：

伊吹島アクセントは5種類の使い分けができる

伊吹島の5種類のアクセント型

- 1、高高 牛 梅 顔 風 口
- 2、高低 石 歌 音 紙 川
- 3、高中 足 犬 馬 島 山
- 4、低高 糸 肩 外 空 中
- 5、低降 汗 雨 桶 声 春

日本で唯一平安鎌倉のアクセントを残す島
日本語の祖語の研究にとって重要な島

「足が、犬が、馬が、島が、山が」) ありがとうございます。今度は私が伊吹島のアクセントを持っているということで、発音してみますね。(三好先生発声:「足が、犬が、馬が、島が、山が」)。稲田先生の発音とちょっと違うでしょう。稲田先生は平坦になっています。高高になっていると思いますが、伊吹島の方は少し下がっているのです。このアクセントが違うということで、伊吹島は「5つの古い平安鎌倉のアクセントを残す島」として、また「日本語の祖語の研究にとって重要な島」だそうです。

次は出部屋跡地の整備です。先程、稲田先生の写真から壊したばかりの時の写真が紹介されていましたが、そこを整地したり、いろいろな案内板を設置したりしてきれいに整備してきました。

今までの活動事例(2)

- ②出部屋跡地の整備(平成17年、18年)
伊吹島には古い産育習俗を残す産小屋があった
昭和5年恩賜財団の助成を受け近代的な助産院にした
戦後まで使われたが、県道工事で解体された
案内板の設置、跡地整備、当時の産着等を収集

新聞、TV等で取上げられ島の子育てが注目される
島のお母さん方が元気になった
島の観光名所になった

出部屋跡地



その他の活動としては、子供武者行列です。この子供武者行列を伊吹島の八幡さんで行ったり、島の宝物の展示をして島歩きのイベントを行いました。この写真は観音寺市の図書館で^{うぶぎ}産着や出部屋で使われていた道具など産育習俗を展示しているところです。これは明日、明後日から行く東京でのアイランダーの時の展示です。

その他の活動事例



これから伊吹島の歴史について写真で紹介します。伊吹島は 1,400 万年前、日本が大陸から分かれる時にできた海底火山の溶岩の島です。それが良く分かるのが石門です。石門の沖は水深が 40m 近くあって、すり鉢状になっています。観音寺と伊吹島間は水深が 20m から 25m。ここだけが深くなっています。ここが石門で海底火山の様子が分かります。この白い砂岩の層が火山活動の休止時に堆積した所です。上と下とで噴火している

ことがよく分かります。それから、ここが赤崎という所で、真浦港の西側の赤くなっている場所です。合戸の穴は北浦の港の中ですが、これも溶岩が浸食された所です。

伊吹島は平安時代に石清水八幡の荘園でした。伊吹八幡神社は平安時代、観音寺のことひき琴弾八幡宮の分霊を祀っています。それからせんぞう泉蔵院。これも平安時代に観音寺の七坊の一つ泉蔵坊を建てて、その後、泉蔵院になっています。

お寺の境内の所にある墓が拝み墓です。こっちにあるのが埋め墓です。伊吹島にも両墓制が残っております。それから、戦国時代に合田氏とか三好氏が住むようになりました。ここに五輪の塔があります。伊吹島で一番古い五輪の塔ですけれども、合田嶋之輔のお墓です。それから右は元禄時代の絵馬です。現在、八幡さんの拝殿いわにあります。三好氏が伊吹島に来島した時の謂れです。天正時代に私達の先祖が来た時の様子だそうです。ここが八幡林で、このあたりは色が飛んでいますけれども海です。八幡林を登って島に入った時の最初の上陸の時の絵馬が今も残っています。元禄時代の子孫が奉納した大絵馬です。

伊吹島の歴史1 海底火山の溶岩の島



伊吹島の歴史2 石清水八幡領



伊吹島の歴史3 合田氏・三好氏来住



それから、江戸時代は丸亀藩領の一つの島として、漁業とか農業もやっていました。ここは島の高台にある高岸^{たかぎし}という所で、江戸時代に役場があった所です。庄屋さんを三好氏が代々やっていたのですが、一番高い所に、この高岸という所があります。

それから、稲田先生の写真にもある共同の井戸です。共同の井戸でこのように原型を保っているのが2つあり、後はみんなコンクリートで覆っています。雨が少ない時には水にたいへん苦勞していた島です。

それから今度は漁業についてです。今、伊吹島はイリコの島といわれてますがけれども、実は鯛網の島です。対岸の鞆の浦では、観光鯛網を行っていますけれども、江戸時代から2統でした。伊吹島は江戸時代から14統ないし15統の鯛網がありました。左の絵馬は、明治の中頃、鯛縛り網の中にクジラが入って潮を吹いている様子です。瀬戸内海にクジラが入ってくるのが珍しいからということで八幡さんに奉納された絵馬です。右側

は観音寺の西の端にある龍宮さんにある絵馬です。観音寺の沖での鯛網で、大漁になった時の絵馬です。このように江戸時代から、伊吹島の近海で獲れた鯛を大坂の雑魚場^{ざこば}まで生きたまま運んでいました。3月には桜が咲く頃の桜鯛、それから、アジ、サバになって、そしてイワシを獲りました。今も鯛は定置網でたくさん獲れます。堤防でも釣れます。鯛は産卵のため島の周りを回っているのです。

伊吹島は打瀬網の島でもあります。左は和船の打瀬網です。これは明治42年の絵馬です。山口県沖まで行って、打瀬網で操業しているところで、亀木の絵馬です。亀が背中に木を背負っているもので、これは吉兆ということで、船の木を亀に付けてお神酒を飲ませて海に帰します。そういう風習があった時の絵馬です。

この時の和船は波が入ると沈没します。右は愛知県造りの打瀬船です。どこが左の船

伊吹島の歴史4 江戸時代は丸亀藩領



伊吹島の漁業1 鯛網の島



伊吹島の漁業2 打瀬網の島



と違うかという、甲板のところ。甲板が密閉されています。だから、ヨットと同じで、風が強ければ強いほど引く力があるので、漁獲を上げることができます。燧灘はかなり西風が吹くので、この愛知県造りは愛知県の三河湾、伊勢湾、大阪湾、それから瀬戸内海に入って、伊吹島では戦後までエビ漕ぎに使っていました。それで、燧灘だけでなく、西の方の大分県とか山口県の方まで出漁していました。

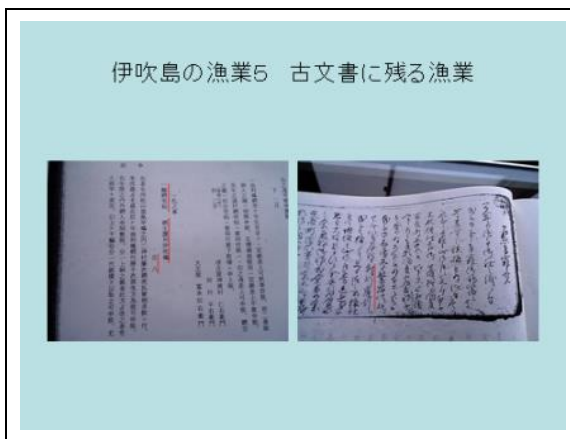
次はイリコの島の話に移ります。左の絵は昔のイリコのイワシ網の絵図で、愛媛県立図書館にあったものです。伊吹島は岩盤の島なので砂浜がないため、船2漕で網を絞り込んで、そこに魚を追い込んで、網船を陸の岩にくくりつけ、網を絞って行く原始的なイワシ網です。

右の写真は出漁の風景です。朝5時30分になると一斉に2漕引きのイリコの本船が出て、そのあと運搬船が後を付いて行きます。

この活気あるエンジン音が伊吹島の活力のもとです。しかし、6月、7月、8月、9月の4か月間がイリコのシーズンですけれども、今年は6月、7月で、燧灘の海域をくまなく探したが、イリコが全然いないということで、もう網を上げています。だから、チリメン、小羽、中羽は、今年は獲れていません。大羽だけです。そういう状況です。

それから、朝鮮半島出漁。大正時代から朝鮮半島に出漁しています。右は資料館に残っている朝鮮水産組合の漁業許可証です。左はマイワシを取っている伊吹島の船です。戦前は北朝鮮の方まで行って油を搾る工場まで経営していたのですが、戦後それを全部放棄して伊吹島に帰ってきています。

漁業で伊吹島の船が他の所に行っていることが古文書の中に残っています。左は江戸時代の末期に愛媛県の伊予灘、二神村の役場に残っている二神文書の中で、讃州伊吹島の庄八という人が入漁料を払って、10年間のイワシ網の操業の権利をもらっているものです。右は伊吹島の八幡さんにある『建立之帳』の中に、対馬、鹿児島の方にまで行って



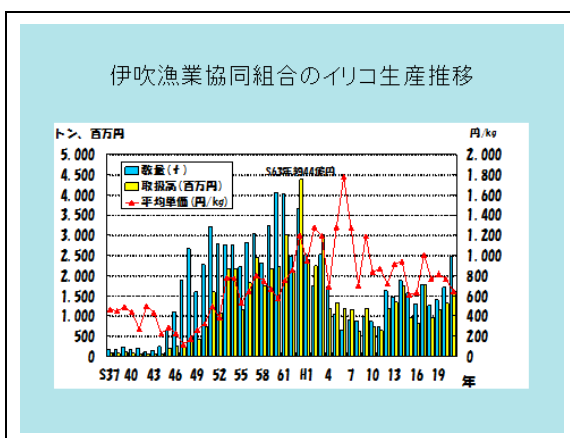
いる記録があります。

それから、「岡山・池田家文庫」の中に味野村のところにある萩野家文書には、下津井の^{でがいなれ}出買船が元禄時代に伊吹島に魚を買い付けに来ています。このように伊吹島の周辺は魚族の産卵の場所として、昔から漁があったということです。

伊吹島のイリコは品質が良くて、漁場が近いということ。また、生産と加工の一貫した設備を持っており、これは全国で伊吹島だけではないかと思います。伊吹島近海には反時計回りで伊吹島還流というゆったりした潮流が流れていて、島の周辺で網を入れて、高速艇でイリコの加工場に着けます。フィッシュポンプで吸い上げたイワシをホッパーに流し、水洗いして 30 枚溜まると、この釜で煮ます。それから乾燥機にかけて製品にします。2 日間ほどで写真のような品質の良い“伊吹いりこ”になります。このような短時間で新鮮なイリコを加工できる一貫した設備を持っているのは伊吹島だけです。この設備だけでだいたい 2 億円です。今、これを更新しようとしても、体力がない状況です。



グラフは伊吹漁業協同組合のイリコを生産の推移です。このデータは伊吹漁協の女性部が全国発表する時に使った資料を借りてきたものです。昭和 63 年に 18 軒で約 44 億円を売り上げています。去年は 13 億円で、その前が 6 億円。今年は 2 カ月だけで 6 億円です。どこがどう違うかということですが、その当時は重油の値段がリッター当たり 30 円か 40 円だったのです。今は油が 3 倍程値上がりして 100 円です。そうなってくると、



魚がいても油代が高くて漁を諦めざるを得ないということになります。多田先生に「どういう関係か」教えてもらわなければならないのですが、今年は 8 月から休漁しています。網元の方は休業補償という保険をかけているから助かりますが、そこで働いている従業員は 2 カ月働いて別の仕事を探すというような古いシステムが伊吹島に残っていて、若者たちは大変苦勞していると思います。

伊吹島では、漁業の他には農業をあまりやっていません。水が湧かないからです。ですから、男達は出漁したり海運関係に就きます。伊吹島には北前船の資料が 120 通ぐらいあります。古文書を読むと塩飽の北前船と同じような動きをしています。これは来年あたり調査しようと思っています。

真浦港は大きく変化しました。昭和 24 年が左で右が現在です。どこが違うかというと、まず、船ですね。こちらは木造の船です。現在はプラスチックになっています。この堤防とこの堤防がこちらにまだ残っています。新しくここに港ができています。それから、ここにある船ですけど、鯛縛り網の船が残っています。小学校の校舎が木造です。この校舎は 4 年前に耐震性がないということで閉鎖して東の丘の中学校に移りました。その小学校跡地です。本当に緑濃くて豊かな島というか、緑になっていますけれども、全部耕作放棄地です。このように昭和 24 年と現在とを比べてみると、かなり違ってきます。ここには今もイリコの加工場があるのですが、こちらは広い天日干しの干場があったのですが、今はその干し場をつぶして、大きな加工工場を作っています。

次に伊吹島の伝統行事を紹介します。新ももて春の百手祭りです。これは江戸時代のままの大きな祭です。黒丸のところに鬼と書いてあるので、邪悪を退散させるという意味があります。西讃の方では百手祭りがたくさんありますが、伊吹島も古い形態を残しています。

伊吹島の海運 北前船資料



真浦港の変化 左昭和24年・右現在



伊吹島の伝統行事1 百手祭り



次に島四国です。四国には旧の3月21日、弘法大師の命日に島内の88体の石仏を回る島四国があります。伊吹島は娘遍路の風習が戦前までありました。結婚する前、結婚してからでも良いですけども、若い娘さん達が本四国歩き遍路を40日間行っています。女性は結婚すると島外に出ることがあまりなかったのも、娘さんのうちに社会見学のためにということで、女性の通過儀礼として、今、注目されています。

それから、伝統行事として神楽があります。伊吹島の神楽は江戸時代から毎年行われています。昼は八幡さんの絵馬堂で、夜は荒神社前^{こうじんじや}でかがり火をたいて舞われています。「婆の玉」という演目は伊吹島だけの舞です。舞っているのは伊吹島の人ではなくて、神楽人^{かぐらびと}です。琴平とか善通寺、丸亀から神楽を舞う人達を毎年、伊吹八幡神社が招き奉納しています。

次は港まつりです。伊吹島は漁師町で恵比寿信仰が盛んです。右側が伊吹島の恵比寿さんです。一対の大黒さんが観音寺の大野原にあります。平成の時代に観音寺の大野原から、沖の伊吹島にこれと同じ一対の恵比寿さんがあるということで調査に来られました。大野原の秋まつりとか伊吹島の港まつりに互いに招待して交流しています。7月の海の日には写真の恵比寿さんを船に積み、伊吹島、股島、円上島を巡る海のまつりです。

それから秋祭りです。左の太鼓台、これは江戸時代末期に大坂から直接購入したものです。それが3台残っています。隨身門^{ずいじんもん}をくぐるため、太鼓台の大きさが当時のままで、太鼓台を研究している人にとっても貴重なものです。

船渡御^{ふなとぎよ}ということで、2隻のイワシ網の網

伊吹島の伝統行事2 島四国



伊吹島の伝統行事3 神楽



伊吹島の伝統行事4 港まつり



伊吹島の伝統行事5 秋祭り



船に神輿^{みこし}を積んで島を一周します。船上では無礼講で神様と共食^{きょうしょく}し、お神酒も出て、最後は顔に墨を付けられ、酔っぱらったままで八幡さんに帰ってきます。

次に産育習俗ですけども、伊吹島の出部屋のことをお話したいと思います。左が昭和5年にできた当時のもので、6畳の畳敷きの部屋が6つある産院です。昔の産小屋から、畳敷きにして助産院にしたのが伊吹島の特徴で、戦後まで使われています。内部でどのようなことが行われていたかという、これは戦後の写真ですけども、助産婦さんの沐浴です。4週間女性達が産小屋で生活していた。中央の大きい木はユーカリの木です。明治の衛生思想の関係で、空気を清浄にするということで、小学校とか病院とかにはユーカリの木が植えられていたそうです。

男性立ち入り禁止の産院ですが、出部屋で女性達がどのような暮らしをしているのかを知ることができる写真が多く残されています。昭和30年代に写真家の緑川洋一先生と中村由信先生が写した貴重な出部屋での暮らしぶりが分かる写真です。

これは現在の出部屋の跡地です。芸術祭では伊吹島をイリコの島、猫の島、迷路の島、母の島と大きく4つのポスターでまとめています。そのポスターと現在の出部屋の跡地です。

次は島の暮らしです。中村先生と緑川先生の写真を見ると当時の島の様子が良く分かります。急坂ですね。急坂ではみんな荷物を負っています。右側は北浦の方で、大きな木を背負っています。奥に写っている人は枯草を海の方に持って行っています。木造の船は船底に貝殻やフナムシなどがついたり、木が腐ってくるので、月1回、船^{ふなたて}として船

伊吹島の産育習俗1 昔の出部屋



伊吹島の産育習俗2 出部屋での暮らし



伊吹島の産育習俗3 現在の出部屋跡地



伊吹島の暮らし1 急坂での荷揚げ



底を焼いてきれいにするために使う枯草です。これを刈るために島のいたる所の雑草をきれいに刈り込んでいました。現在のような耕作放棄地は全くありませんでした。

これも伊吹島の暮らしです。水を運んでいるのか、肥^{こえ}を運んでいるのか良く分かりませんが、これは子供が子守をしています。この小さい子供も背に何か背負っていますが、人形さんかなんかでしょうね。当時、北浦の集落にこれだけの子供がいたということです。今はお婆さんが一人しか住んでいません。出部屋から北浦にかけての集落は人口が少なくなりました。

伊吹島の暮らし2 子供が多い



瀬戸内海の景観ですが、これはお不動さんの桜です。

それから伊吹島は夕日がきれいです。円上島、股島、ここが魚島です。うしろが島なみ海道です。島なみ海道の島があって、多々羅大橋とか、因島大橋の点滅を見ることができます。このようにゆったりした時間が流れています。

美しい瀬戸内海の景観1 不動尊の桜



これは伊吹島の草花です。左側は春に咲く香りの花といわれているニセアカシアの白い花です。12月になると水仙が咲き出します。伊吹島は日本水仙の自生地です。

美しい瀬戸内海の景観2 夕景



美しい瀬戸内海の景観3 草花



本題の伊吹島の現状についてまとめてみました。日本一のイリコの島です。おいしい魚がある。伝統行事が残っている。古い産育習俗が残っている。美しい景観がある。温暖な気候で、ゆったりとした時間が流れているということです

一方、夏場だけの操業。若者の定住が少ない。フェリーがない。観光客の受け入れの不備。定期船の便数が少ない。空き家、廃屋が多い。耕作放棄地が多いという負の現状があります。

次は人口の推移です。グラフにすれば良かったのですが、江戸時代は 800 人、明治維新の頃の最初の戸籍調査の時に 1,075 人。50 年後の大正 11 年には 2,775 人。敗戦の時には 3,817 人。人口のピークは昭和 31 年の 4,448 人です。それからずっと下って 2006 年、平成 18 年には江戸時代と同じぐらいになっています。現在は 2014 年 10 月の 623 人で、ほとんどがお年寄りです。

伊吹島の現状として空き家、廃屋の問題があります。空き家や廃屋はいたる所にあります。寺町といってお寺さんの付近は特にひどいです。このように放置されたままです。ここは北浦の旧道ですけども、全部空き家です。

それから、定期船の問題です。このニューいぶきは3階建の立派な船で300人乗ります。しかし、乗っているのが平均で 30 人ぐらい。観音寺市営で運行していますが、冬場に欠航が多いのです。高速艇で嵩^{かさ}があって早いものの波に弱い。風に弱いのです。それとフェリーでないので、軽自動車をクレーンで吊り上げています。伊吹島が発展していないのは、たぶんフェリーが就航していないことも一因ではないかと思います。

伊吹島の現状

- 日本一のイリコの島
- 通年おいしい魚がある
- 古い伝統行事が残る
- 古い産育習俗が残る
- 瀬戸内海の美しい景観
- 温暖な気候
- ゆったりした時間
- 夏場だけの操業
- 若者の定住が少ない
- フェリーがない
- 観光客の受け入れ不備
- 定期船の便数が少ない
- 空き家、廃屋が多い
- 耕作放棄地が多い

伊吹島の人口の推移

- 江戸時代 800人
- 1872年(明治 5年)1075人 最初の戸籍調査
- 1922年(大正11年)2775人 50年間で2倍
- 1945年(昭和20年)3817人 敗戦の年 急増
- 1956年(昭和31年)4448人 人口のピーク
- 1990年(平成 2年)1624人
- 1997年(平成 9年)1193人
- 2006年(平成18年)814人
- 2014年(平成26年)623人 男289人女334人

伊吹島の現状1 空き家・廃屋の問題



伊吹島の現状2 定期船の問題



それと便数が1日4便ということで、島に高校がないので、高校に入ると伊吹島に帰ることができない。そこで、観音寺に家を建てた方が安上がりだと親が考えて、伊吹島から出て観音寺に家を建てています。

次は医療の問題です。左は旧役場跡にある診療所です。国民健康保険の観音寺市伊吹島の診療所です。ここは月曜日から金曜日の昼間、観音寺市内の3つの病院、三豊総合病院や松井病院、井下病院の先生が交代でいます。しかし、最終便が出た後はお医者さんがいません。土曜日曜もいません。何かあった時には私のところが海上タクシーをやっているで電話がかかってきます。それで3年間、1年に平均すると10件ぐらい、夜間に担架に乗せてきたお婆ちゃんとかお爺ちゃんを運んでいます。この仕事は大変きついです。ボートで運んでいる時に亡くなったらどうしようか、波が高かったらどうしようかという問題があります。

これは小中学校の校庭です。観音寺市のヘリコプターの緊急時の着陸にここを指定しています。しかし、学校が使っていたら着陸できません。砂場は砂を巻き上げるとヘリコプターのエンジンが止まって墜落したらいけないので、散水しなければなりません。それで、今、防災関係者がヘリポートを作ってくれと陳情しています。

次は耕作放棄地の問題です。稲田先生の写真を見れば、20年前との対比ができます。今はサツマイモを作っている所が少しあるだけで、どこも作っていない状態です。このあたり全部が耕作放棄地です。滝の宮といって一番高い所です。私達が耕作放棄地を借り上げて、今、ナバナを植えています。これは2,3日前の写真です。8月末に種を蒔くと12月には黄色い花が3月頃まで咲きます。これも耕作放棄地だったところです。

伊吹島の現状3 医療の問題



伊吹島の現状4 耕作放棄地の問題



今度はブランド化の問題です。“伊吹いりこ”の図とかは全て漁協女性部が発表したのを借りています。「伊吹いりこ」を中心に観光産業、食品産業、農林水産業の発達ができれば良いな」と言うことです。“伊吹いりこ”は多くの方の協力を得てブランド化になりました。ただ、ブランド化して伊吹島の漁民が儲かったかという、そうでもないのです。なぜなら、消費者は“伊吹いりこ”をスーパーで高い値段で買っています。一方、生産者の方は今までと同じ値段です。こうなってくると、ブランド化になって儲けているのはどこかということになりますが、中間業者です。問屋さんが儲かっているだけで、本当は伊吹島に金が落ちるようなブランド化にしないといけないと思います。



それから、魚価の低迷です。都市部に魚屋さんがなくなってきています。スーパーのマルナカとか木村とかで鮮魚を買った方が安いと言うか。今、市場で何が起きているかと言うことです。魚に値が付かないのですよ。あまり買い手がないからということのようです。鯛が市場に来ると「1,000 円、1,000 円、1,000 円」と言って、買い手がなかったら「800 円、800 円、800 円」。それでも買い手がなかったら「600 円、600 円」、そして



500 円で落札。せり上げでなくてせり下げの状況が起きています。ここで値が付かない場合には、高松の市場に送っています。そうすると漁師の方は 2 回市場を通すから、 $5\%+5\%=10\%$ もの手数料が吸い上げられてしまいます。

こちらの写真は伊吹漁協の魚市場です。定期船の着くところの土地をかなり持っています。景気の良い時に買い上げて、それを今は駐車場にしています。伊吹漁協が大家さんで、組合員に貸しています。毎月、駐車料金が入るので、ある程度の経営はできるけれど、それ以上のことが望めないというようなことが起こっています。

そこで、島を元気にするための方策を私なりに考えてみました。やはり交流人口を増やすこと。それから、伊吹島には4,000人いたから、都市部に住む島出身者の子供の若者との交流を増やすこと。伊吹島は良いものを持っているので、観光客の受け入れ体制を強化すれば、観光の面で結構儲かる島になるのではないかと思います。空き家とか廃屋とか、耕作放棄地の環境整備、これもやって行かなければいけないと思います。それから、

「景気が良い時にイリコ以外の特産品を開発してはどうか」と言っているのですけれども、イリコ産業が衰退してきているので、これもちよっと難しいかもしれません。それから、インターネット関係では伊吹島モールの立ち上げ。観音寺市には伊吹漁港と観音寺漁協があって、おいしい魚が水揚げされる基地になっています。みんなは大都市に行って食べていますが、地元で食べるというのがありません。おいしい魚を食べに来ていただくための仕組み作りが必要です。

香川大学の学生さん達も観音寺のことを研究していると思いますが、私はウォーターフロントだと思っています。観音寺の町は、港を中心においしい魚があります。それから、三豊平野のおいしい野菜。両方を食べさせる所があれば、もっともっと地産地消につながります。このようなことができるのではないかなと思っています。

伊吹島は健康増進の島でもあります。急坂が多くて診療所がその上にあるので、メタボの人達に歩いてもらえるような仕組み作りができれば良いなと思っています。

最後ですが、若者が人生設計できる島作りです。若者をサポートする体制作りですね。安心して安全で経済的に豊かな場所で子育てをします。活力のある島には若者がいます。経済的に豊かな島にならないと若者は定住しません。だから、若者というか、女性ですね。女性がどこで出産するかということですが、やはり女性は本能として経済的に豊かな所で出産するのではないかと思います。です

島を元気にするための 方策

- 交流人口を増やす
- 都市部に住む島出身者の若者との交流を増やす
- 島四国・秋祭り等 観光客の受け入れ体制を強化
- 空き家、廃屋、耕作放棄地の環境整備
- 経済的に豊かになる イリコ以外の特産品の開発
- 伊吹島からの情報発信 伊吹島モールの立ち上げ
- おいしい魚を食べに来ていただくための仕組み作り
- 急坂を活用した健康増進の島 ハイキングコース
- 若者が人生設計のできる島づくり

観光地として未開の伊吹島



若者をサポートする体制づくり

- 小鳥の子育て
安心して安全でエサのある所で子育てする
人も同じで活力ある島には、若者がいます
経済的に豊かな島にならないと若者は定住しません
過疎と高齢化の次に来る世の中は？
燐麩だけに頼っていいのか。海外に出る道もある
結婚しない(できない)若者の支援
緑濃き 豊かな島や かかる地を
故郷にもたば 幸せならん
ほんとうの豊かさは何か 体感できる 伊吹島にしたい
先生方の助言、指導をお願いします

から伊吹島のこれからを考える時に若者をサポートする体制作りが必要かと思います。

過疎と高齢化の次に来る世の中はどのようなのでしょうか。伊吹島は 40 年前から過疎と高齢化が言われて、今でも過疎と高齢化から抜け出せていません。都市部もそのようになってきています。「伊吹島で軟着陸できれば都市部に展開できるかなあ」と思っていたのですが、それでも叶わない状況になってきています。

戦前、伊吹島の漁獲高は 1/3 が燐灘、1/3 が大阪湾、大分県、山口県、1/3 が朝鮮半島出漁で得たものでした。戦後になって、漁場が狭まり燐灘だけで生活をしています。そこで、「若者達を漁業の指導者として、海外に送り出すようなことができないものか」と思っています。狭い燐灘から世界に飛び出した方が良いのではないかと思います。

それと結婚しない、できない若者がたくさんいます。この支援をどうするか。これ問題だと思います。金田一先生が色紙に書かれた「緑深き 豊かな島や かかる地を故郷にもたば 幸せならん」。本当の豊かさは何かというのは、経済的な豊かさだけではないと思います。そういうことを体感できる伊吹島にしたいというのが私の想いです。伊吹島だけでなく瀬戸内海の島々も含めてですね。今、過疎と高齢化で、すでに限界集落になってしまった島もあります。しかし、本当の豊かさ、都市部で味わえない豊かさがあるので、必ず瀬戸内海の島々が見直される時が来ると思っております。伊吹島はその時まで頑張っていけば良いのではないかと思います。「何が足りないか」と言ったら、やはり強力なリーダーシップを発揮できる人ですね。その島でリーダーシップをとれる人達の育成が必要ではないかと思います。

以上で私の話を終わります。これからも先生方の助言、ご指導をお願いします。ありがとうございました。

ご清聴ありがとうございました



[本城先生]

どうもありがとうございました。稲田先生から 1988 年頃の島の状況が紹介されました。そのあと三好先生から島の歴史と文化、それから現在の状況、そして課題、その課題をどのように克服したら良いのかまで話題提供されました。ただいまのお二人の先生のお話に対して、ご質問等がございましたらお願いします。

先ほど三好先生から、「多田先生、なんでイリコがとれないのか」と言う難しい問題が出ましたけれど、お答えできますか。

[多田先生]

すみません。全く応えることができません。

[本城先生]

確かにこれは非常に難しい問題だと思います。後で神山先生から漁獲とクラゲの問題の話が出てまいりますので、その時に、この問題を扱ってみたいと思います。

他にございませんでしょうか。

[質問者]

出部屋のことで質問します。年間出産数がだいたいどのくらいで、常駐していた産婆さんは何人なののでしょうか。

[三好先生]

助産の先生方が来られていますし、伏見さんも来られていますので、そちらの先生の方が詳しいと思うのですが、戦後、人口が4千人ぐらいでしたので、正式な免許を持った助産師さんが3人ぐらいいました。出産は旧正月の2月ぐらいがピークになるそうです。逆算すると、旧正月に結婚して翌年の2月が出産のピークです。その頃には六畳間が六間ありまして、六畳間を1人で使うのではなくて2人いたり、3人いたり、という使用状況でもあったようです。出産数については、今、小学生が11人、中学生が9人で、年間に生まれているのが1人ないし2人です。私の小学校の同級生が80人ぐらいいるので、4千人いたころには、毎年80人ぐらいは生まれていたと思います。この程度の答えしかできません。

[本城先生]

他にございませんでしょうか。伊吹島の医療の問題とか、若者の出産問題とか、そういう話が出てまいりました。島の遠隔医療の時間を準備していますので、その話が終わった後にでも、もう一度協議してみたらどうかと思います。他にございませんでしょうか。

4千人を超える人数がいたということですが、この小さい島にそれだけの家が建てられたのでしょうか。

[三好先生]

伊吹島は4千人いた時の家がそのままの状態に残っています。朽ちてきていますが、800人いた江戸時代には、家に前庭があって野菜を作る畑がありました。それから次男三男に家を建てていって、今の伊吹島の景観になっているということです。江戸時代は、もう少しゆったりした生活をしていたのではないかと思います。伊吹島に4千人いたのは戦後ですね。外地から帰ってくる人達がいっぱいいて4千人になり、その後、高度成長の時に京阪神に移っています。その人達の子供達を伊吹島に呼び込めば、伊吹島はもっと元気になるのではないかと思います。

[本城先生]

ありがとうございました。他にございませんでしょうか。

[質問者]

私の叔母が戦後、中讃から伊吹島に嫁に行って民宿をやっており、男の子ばかりですが、子供が 4 人います。今、その子供達全員が伊吹島に残っているかどうか知りませんが、たぶん、お嫁さんが岡山県の高梁市から来ています。お嫁さんが里帰りしやすいように、香川県からだけの船ではなくて、本州からも船で行き来できれば良いのですが。また本州から島に嫁ごうとしているお嫁さんがいたら何と言いますでしょうか。三好さんにお聞きしたいのですが、伊吹島は本州から遠いのかな。

[三好先生]

伊吹島は高松から見ると西の孤島に思われています。でも、伊吹島に来ていただければ分かるのですが、四方を海に囲まれていて、エンジンのない櫓漕ぎの船で 2 日間あったら大阪に行けるという所です。それで鞆の浦とか尾道には 3 時間もあれば行けます。昔、伊吹島の人達は潮流に乗って櫓漕ぎの舟で行っていました。伊吹島を七合満ちの時に出れば、上りの潮流に乗り塩飽に到着できます。そのまま今度は引き潮で播磨灘まで行けます。播磨灘で 6 時間待って、エンジンが無くても、次の上り潮で大阪まで行けるということで、伊吹島の昔の人は本当に凄（すご）いと思います。2 日間で京都、大阪の最新の情報が伊吹島に入るのでから。伊吹島は燧灘の東西の交流地点です。東の観音寺とか、豊浜とか、島なみ海道の向こうなど、かなり東西の交流が江戸時代からありました。今は香川県、愛媛県、広島県の東西の交流は少ない。それと香川県の島の特徴として、伊吹島は観音寺、高見島と佐柳島は多度津に結びついています。今は島間の交流が少ないのですけれども、昔の人達はそんなことお構いなしに自由に行っていたのです。

汽船で高梁市に直接行けたら良いと思いますが、油代がうんと高くてフェリーを止めようとしている時に、それはちょっと難しいかもしれません。昔は多度津や観音寺から尾道とか福山へ結構たくさん汽船が出ていました。今は重油が高くて。私の海上タクシーでも儲けにならない状態になっているので。本当に今は油代が高いです。

[本城先生]

他にありませんでしょうか。伊吹島は合田氏と三好氏の 2 つの氏で形成されています。三好は後に入ってきたということなのですね。どういう経緯で入ってこられたのでしょうか。元禄時代でしたでしょうか。

[三好先生]

伊吹八幡神社に絵馬があるのですけども。私達の先祖は天正時代に、長宗我部氏に追われて、高松の十河城にいた三好氏が伊吹島に入ってきたということです。伊吹島の三好氏は十河氏との関係が深いのです。もともと阿波の三好郡から出て、京都、大阪に行って堺とかを治めていて、信長に攻められて四国に帰ってきました。四国に帰って来ると長曾我部氏が土佐から攻めてきた。高松の十河城は四男ですね。それも小豆島の方まで追われました。小豆島に追われて弟の方が先に香川氏の客分で伊吹島に住んでいたのです。香川氏が長宗我部氏に味方したので、弟が危ないからということで救援に小豆島から来たのが伊吹島の三好氏の伝承です。

それから、合田氏は三好氏が島に入ってくる 50 年前に伊予から来たと思われます。佐柳島には合田という地名もありますけれども。合田氏は詳しくはわかってないです。伊吹島の対岸は川之江です。川之江は阿波にも土佐にも通じている交通の要所で陸の伊予海道と海の伊予海道が通っています。だから、伊予船とかが往来している時に、安全に船を運航するために通行税的なお金を徴収していたのではと思います。そのあと長宗我部氏の動きによって、三好氏が島に入ってきました。伊吹島の東西で戦いもあったようですが、西の丘に三好氏が住んで、東の丘に合田氏と今でも住み分けをしています。合田氏が多いのは東の方で、西の方は三好氏です。その後、脈々と平成の世まで続いている状況です。合田氏と三好氏が結婚すると、島内には住めないということで島外に出ていたそうです。今ではそういうことはありません。

[本城先生]

ありがとうございました。大変興味深い島ですね。かなり時間が経ちました。皆様から質問はございませんでしょうか。では、総合論議の時にまたお受けいたしたいと思います。